Ⅲ　委員会活動

医学研究倫理委員会　　文責／小野　剛

◎目的

玉川病院内で施行される“人を対象とした医学的研究および医療行為”を対象として、新たなエビデンスの確立を目指し、科学的、倫理的配慮に基づいて臨床試験を審議・改善・認証することを目的とする組織である。人を対象とする医学研究の倫理的原則“ヘルシンキ宣言”の“2013年10月WMAフォルタレザ総会（ブラジル）の改訂版”の要旨にそって審議を行う。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：小野　剛（診療部）
診療部：渡邉健一
医療技術部：北岡　晃
看護部：高橋由美子
事務部：高橋英次、伊藤　一
外部委員：網本　和（東京都立大学）
　　　　　三宅美博（東京工業大学）

◎開催日

第2水曜日、午後5時　迅速審査は適宜行う。

審査の適応基準に関しては、2017年5月29日改訂の“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針　ガイダンス”最新版（https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000166072.pdf）を参照。

◎活動報告

2020年度の医学研究倫理審査において42件の申請があった。

申請内訳：新規37件、研究計画変更5件
審査状況：本審査6件、迅速審査30件、合計36件
　　　　　2021年度の審査持ち越し6件
審査結果：承認31件、条件付き承認の保留2件

近年ディオバン事件を含め、わが国の医学研究におけるさまざまな不正行為が明らかになり、厚生労働省および文部科学省は“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（いわゆる新倫理指針）”を策定した。研究者等・研究機関・倫理審査委員会をはじめとする全ての関係者は、高い倫理観を保持し、人を対象とする医学系研究が社会の理解および信頼を得て社会的に有益なものとなるよう、適切に対応することが求められている。

厚労省と文科省は“新倫理指針”の実運用において、“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス”を示し、附則の規定に関する解釈や具体的な手続の留意点等を説明しており、さまざまな例示を行っている。倫理審査を提出の際は、上記において指定の“eラーニングの受講”を求めている。ICR臨床研究入門（https://www.icrweb.jp/icr_index.php）の“臨床試験の基礎知識講座”で、基礎知識を習得できる。研究者は、受講修了証の取得を必須としている。

◎今後の目標

増加する倫理申請案件に対応し円滑でより厳格な審査を行うため、本審査前に院内委員による事前委員会で申請案件の審査方法（迅速審査、本審査）の判定を行っていく。また、臨床研究法に基づく研究に関して、臨床倫理委員会と連携して取り組んでいく。

医療安全管理委員会　　文責/杉山　恵

◎目的

医療事故の発生・再発を予防し、「医療の質」の確保と「安全な医療」「患者安全」を実施するための医療安全全体の充実を図る。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：相川　丞（診療部）
診療部：和田義明、岩本正照、大石陽子
医療安全管理室：杉山　恵（ジェネラルリスクマネージャー）
感染管理室：横溝直子（感染管理認定看護師）
看護部：高橋由美子、栗原真希、武井英美、
　　　　小澤亜由美、菊池優子
医療技術部：北岡　晃、井上博満、菅野将敏、
　　　　　　千葉哲也、篠原　真、猪狩亜希子
事務部：佐藤佳子

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動報告

・医療安全ラウンド（月1回/月曜日）
・医療安全カンファレンス（週1回/金曜日）
・医療安全セミナー2回　（7月/11月）
　7月：「アウトブレイクを防ごう」　感染対策
　　　「医療現場でできるエラー対策」　医療安全
　　　参加率86.7%

11月：「診療用放射線の知識」　放射線科
「当院におけるCDVID-19」　感染対策
「効果的なダブルチェック」　医療安全
参加率94.9%
新型コロナウイルス感染症対策から、「密閉」「密集」「密接」となる集合研修を中止し、e-ラーニング研修へ変更しての開催となる。

・医療安全対策地域連携活動
テーマ：「医療安全管理体制」「医療機器管理体制」「ダブルチェック」
Ⅰ・Ⅰ連携：東京共済病院　(2020年10月)
Ⅰ・Ⅱ連携：世田谷記念病院(2020年12月)
新型コロナウイルス感染症対策から、ラウンド活動を中止し、オンラインでの開催となる。

・医療安全ニュース発信：3回
・改善対策
・バックバルブマスク使用時のフィルタ装着変更
・院内標準スライディングスケール・低血糖・高血糖対応プロトコル作成
・E-callフローの改訂
・暴言・暴力対策マニュアル作成
・医薬品使用のための関連業務手順書一覧作成

◎今後の目標

・安全に対する部署医療安全推進者の育成強化
・チェックバック(再確認)と、正しいダブルチェック活用の推奨
・有害事象発生時の事例検討会、M&Mカンファレンス開催の推奨
・医療安全対策地域連携による外部評価の有効活用

感染対策委員会

文責／横溝直子

◎目　的

医療関連感染予防対策を適正かつ円滑に遂行するための検討を行い、職員に周知徹底を図り、医療関連感染を減少させ、職員の安全を守る。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：相川　丞(診療部)
診療部：和田義明、岩渕千雅子、三浦孝夫
感染管理室：横溝直子(感染管理認定看護師)
医療安全管理室：杉山　恵(ジェネラルリスクマネージャー)
看護部：高橋由美子、原賀由美子、武本千恵美、田中　峻、各看護単位1～2名
医療技術部：北岡　晃、田川誠二、古賀一将、飛知和澄子、酒匂啓輔、松村彩子、原　慶、篠原　真
事務部：佐々木栄三、加藤香織
ICT：相川　丞、横溝直子、武本千恵美、高野綾香、田川誠二、野上由佳、古賀一将、飛知和澄子、柴﨑彩歌、池田知郷

◎開催日

第2火曜日、午後4時(ICT：毎週水曜日、午後4時)

◎活動報告

・院内環境ラウンド(月1回)、耐性菌サーベイランス・抗菌薬適正使用の監視(週1回)
・針刺し・切創　件数30件(前年比+16件)
血液・体液曝露　0件
・血液培養総検査数　1,578件(+455件)
2set率88.8%(+6.1)　陽性率19.4%(+0.7)
汚染率2.6%(-0.4)　血液培養採取セット数(1,000患者日数あたり)16.4(+6.29)
・感染防止対策地域連携カンファレンス(青葉病院　年4回)
・手指衛生指数(1日1入院患者あたりの手指衛生回数)6.5回(+2.8)
・COVID-19対応
流行第一波(～5月)時、玉川病院は世田谷区で唯一の帰国者・接触者外来設置医療機関であった。保健所紹介の受診依頼を発熱外来と救急外来は、この期間だけで199件応需している。
年間入院応需数：246名(うち保健所80名・都庁コロナ調整本部63名)
アウトブレイク　2件
8月医師関連COVID-19：
7名発症(職員7名)
病棟閉鎖4病棟(1病棟17日、3病棟13日)
1月東2病棟関連COVID-19：
55名発症(患者39名・職員16名)
病棟閉鎖2病棟(東2：28日、西2：40日)

◎今後の目標

・アウトブレイク　0件
・針刺し、切創　18件以下、血液・体液曝露　3件以下
・手指衛生指数　8回以上
・血液培養2set率　90%以上
・COVID－19感染症のアウトブレイクを起こさない

メンタルケア・ハラスメント委員会

文責／今村吉彦

◎目　的

定期的にストレスチェックを行い、職員のメンタルケア・ハラスメントの有無をチェックし、高い健康リスク者へのケアの取り組みや職場のハラスメントに対応する。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：今村吉彦（診療部）
看護部：小川マツ子
医療安全管理室：杉山　恵（ジェネラルリスクマネージャー）、
　大池由貴子
医療技術部：弓場一伸、澤田祐子
診療支援部：水高優子
事務部：佐々木栄三

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1.メンタルケア

・2020年度はコロナの影響から例年以上に職場のストレスが高じ、メンタルケアを希望されるケースが多かった。そのため、保坂　隆医師（精神神経科）を招聘し面談をしていただいた。

・ストレスチェック制度（SOMPOリスケアマネジメント社 LLax seed）を活用し、職場のメンタルヘルス対策を行った。本年度はコロナ禍の影響もあり年1回の施行とし、新たなストレスチェックを用いた。これによりチェック項目が82項目から105項目に増えたが、従来の仕事の量的負担や質的負担の評価に加えて、情緒的（心理的）負担や報酬面の評価、仕事の満足度も評価できるようになった。

実施日：2020年7月20日～8月18日
　実施者721名、
　受験者数（実施率）615名（80.5%）、46組織
組織診断（集団分析）結果：
　総合健康リスク値　103
　（全国平均100　高いほど高リスク集団）
　仕事のパフォーマンス総合評価　92.5
　（全国平均94、低いほど労働生産性低下）

高ストレス集団については4集団を抽出し、ストレスの多い部署の管理職に対しSOMPOヘルスサポートの担当者と委員会代表者で個別面談を行い職場環境改善に向けて協議・検討した。個人に対しては専門の臨床心理士や医師の面談・受診を勧めている。

2.ハラスメント

・「職員の声」ポストから　投書：11件、面談：13件、ヒアリング：8部署27名、その他：2件

相談は職場の人間関係に関する内容が多く、ハラスメントに関してはほとんどが職場上司によるパワハラであった。まずリスクマネジメント担当委員が面談し、介入が必要と判断した場合は本人の同意を得て委員会にて状況の確認や対策を検討している。さらに対応が困難な事例に関して院長に進言し解決をはかっている。

・保坂医師によるハラスメント防止研修を予定していたが、コロナの影響で実施できなかった。

◎今後の目標

職場のハラスメントが高ストレスや作業能率の低下につながり、さらに新たなハラスメントを生み出す土壌となるので、風通しのよい職場環境を構築すべく、メンタルケア対策やハラスメント研修を強化し職員個々の意識を高めていきたい。

総合的質管理（TQM）委員会

文責／今村吉彦

◎目　的

2019年にホスピタリティー委員会と教育研修委員会が統合して発足した委員会。患者・職員満足度調査およびTQM（Total Quality Management）活動を継続しながら、その内容を分析し病院の質の保持・向上へつなげる。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：今村吉彦（診療部）
診療部：奥田直樹
看護部：小川マツ子、澁谷喜代美、中村理恵、
　浅川美保、大竹順子
医療技術部：井上博満、松村彩子、古賀一将、
　小倉敬史、小林悟史、梅津美奈子
診療支援部：船橋達也、平田美乃里
事務部：藤井　隆、大西真美子、松坂加寿美

◎開催日

第4火曜日、午後4時

◎活動報告

コロナ禍で各活動は様々な影響を受けて低調であった。

・2020年6月に予定していた病院機能評価受審が一年延期となった。各部署ともにコロナ対応により準備が遅々として進まなかったものの、2021年6月受審に向

け、自己評価表の内容確認、受審に必要な書類の確認などを行った。

・TQM活動：第12回TQM発表会は2021年7月31日に延期となった。7チームが参加予定で2020年12月5日、19日に全体活動を行った。

・患者満足度調査

外来患者：従来の紙ベースによるアンケート調査から、QRコードを読み取るネット回答方式に変更した。
外来での待ち時間を利用して答えていただけるように考えているが、周知が進まないことと院内のWiFi環境の問題もあり、参加人数は少ない状況である。33件の集計結果によると、総合評価は「とても満足」が54.5％、「やや満足」を加えると72.7％であり比較的良好であった。
なお、交通アクセスに対する不満が高かった。

入院患者：2021年3月より全ての患者に対し入院時にQRコードのついたアンケート用紙を入院センターにて配布した。

・患者からの投書

年間投書総数：405件（感謝の声：延べ354件、指摘の声：延べ280件）

月毎に集計したあと、ご指摘の声に対しては担当部署にフィードバックし、改善点の検討と対応を可能な限り行っている。

◎今後の目標

・病院機能評価を受審し認定病院を維持する。
・TQM活動は、院内における日頃の疑問点や改善点などをテーマとし、様々な職種で具体的な対策を考え病院の改善や進歩につなげていく活動である。職員のモチベーションを高め、活発化させていきたい。
・患者および職員満足度調査の結果を正しく評価し、その分析を進めながらフィードバックしていく。
・患者からの投書に対し真摯に対応していく。

特定行為研修管理委員会

文責／大石陽子

◎目　的

特定行為看護師育成、看護師特定行為研修に関する研修管理、指導体制の整備、研修修了後の特定行為看護師に対する活動のサポートを行う。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：大石陽子（診療部）
診療部：和田義明、相川　丞、長　晃平、栗原正利、今村吉彦、石井一之、森田瑞生、岩渕千雅子
看護部：高橋由美子、澁谷喜代美、木幡典子、柳川花菜子
医療技術部：北岡　晃
事務部：高橋英次、佐々木栄三、高木　真
外部委員：長嶋久美子（世田谷区医師会立看護専修学校）

◎開催日

年数回

◎活動報告

・2021年3月現在、4名の特定看護師が診療の現場で活動し、特定行為研修の教育およびサポートを行っている。
・今年度は下記の特定行為について研修を実施した（研修期間：2020年6月～2021年5月）。
「末梢挿入中心静脈カテーテル（peripherally inserted central catheter：PICC）」
「褥瘡または慢性創傷の治療における血液のない壊死組織の除去」
「創傷に対する陰圧閉鎖療法」
「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」
「脱水症状に対する輸液による補正」
・共通科目と区分科目のスケジュール作成、講師の依頼。
・演習や実習のサポート。
・今年度は研修生4名を育成した。

◎今後の目標

・2022年度からパッケージコースおよび新規区分の増設を検討する。
・診療現場における特定行為看護師の活躍の場を拡大する。

臨床研修管理委員会

文責／長　晃平

◎目　的

初期研修医の研修目標であるプライマリケアの習得および医師としての人格の育成を支えるために当委員会がある。研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、研修医の管理および研修医の採用・中断・修了の際の評価等々、臨床研修実施に関してその統括管理を行う。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長兼プログラム責任者：長　晃平（診療部）

診療部：和田義明、相川　丞、大石陽子、石井一之、
　　　安田誠一

看護部：澁谷喜代美

事務部：佐々木栄三、高橋英次、高木　真、石川裕弥

協力型臨床研修病院の研修実施責任者：

並木　温（東邦大学医学部卒後生涯教育センター長）

合計12名（敬称略　順不同）

◎開催日

隔月火曜日、午後5時30分

◎活動報告

2020年4月1日より7名（基幹型2名、東京医科歯科大学協力型5名）が入職し、2019年4月入職の基幹型1名と合わせ、計8名が1年間の研修を受けた。2020年度、各研修医のローテーションスケジュール（表1）。

2020年度1年目研修医4名は新プログラムとなる。

必修科目；内科（24週）、救急（8週＋麻酔4週）、麻酔4週（計8週）外科（8週）、小児科（4週）、産婦人科（4週）、精神科（4週）、地域（（4週、2年次）の必修科目のうち記載上位4科目を1年目に研修した。また一般外来4週も必須化され、総合内科を中心に研修した。

2020年度2年目研修医4名は従来からのプログラム；地域１か月と選択科目11カ月を研修した。

指導医は7年以上の臨床経験を有する当院常勤医が務める。

研修評価はEPOC（Evaluation system of Postgraduate Clinical training）による臨床研修評価システムにて実施する。１年目研修医は新プログラムになるため評価システムもEPOC2での運用となった。基本的臨床能力評価試験（JAMIP）によりプライマリケアや総合診療の知識全般を評価した。

・2020年7月～2021年2月で27回、指導医による研修医セミナーを開催（表2）。
・2020年6月30日、7月2日、7月7日に初期研修医（2021年度）Web病院説明会を実施。
・2020年7月14日、7月20日、7月30日に初期研修医（2021年度）見学会を実施。
・2020年8月15日と8月22日に初期研修医（2021年度）の入職採用試験を実施。
・2020年1月29日、全初期研修医が基本的臨床能力評価試験（注1）を実施。
・2021年3月1日、初期研修医院内研究発表会（YIA）を開催（表3）。
・2021年3月29日の早朝医局会で、修了証書授与式を開催。

◎2020年度初期研修医の総評

1.研修状況について（表1）
新型コロナウイルスの流行により救急医療等での診療制限により研修量も減少傾向にあったが、研修　スケジュール通りに、各研修医は研修実施期間、経験目標、行動目標などすべて問題なく実施した。

2.出勤率、当直・日直について
すべての研修医において、欠勤や大きな病気等なく研修が行われた。2年目研修医三宮医師は妊娠のため産休育休を取得したが2年間の研修状況は修了基準を満たした。当直・日直の回数は、平均で当直2.4回/月、日直0.7回/月。医師の働き方改革の先駆として初期研修医は2019年度から当直明け半休となる。

3.研修医セミナーについて（表2）
新型コロナウイルスの感染対策上の問題からその開催が遅れた。7月よりのセミナー開始であったが延べ27回と昨年度より多い開催となった。今後オンラインを利用し、定期開催の維持に向け、工夫が必要と考えられた。またセミナー内容のさらなる充実が求められる。

4.学会・研究会発表実績について（表3）
YIA（初期研修医院内研究発表会）中心の発表を経験した。2020年はコロナの年にあたり、前半は発表が難しかった時期ではあった。年度後半はWeb開催への移行もなされ、各研修医はWeb発表を経験した。院内環境のさらなる整備が必要である。

5.修了判定について
2021年3月22日の委員会にて上記1～4およびEPOC基本的臨床能力評価試験（JAMIP）結果を評価し研修医2年目4名（協力型も含む）は全員研修を修了可とした。

6.進路は（表4）のごとくである。

（注1）基本的臨床能力評価試験（JAMIP）とは、日本の初期研修医がどの程度プライマリケアの知識を身につけているかを把握する試みで、日本医療教育プログラム推進機構が実施。

◎今後の目標

1. 学術集会や研究会での発表促進。抄読会や症例検討会での発表促進。Web環境の整備
2. 適正な自己研鑽を定義し、その促進を行う。
3. EPOC2よりの360度評価を促進。
4. 研修医セミナーのテーマ拡充をはかる。医療安全、臨床倫理、感染対策など病院横断的な項目を追加する。
5. 研修医が実施してもよい医療行為に関して内容の再評価を行う。
6. 医師の働き方改革の先駆となるべく、残業時間等仕事量を適正に定量化する。

（表1）2020年度研修医のローテーションスケジュール

<table>
<tr><th></th><th>氏名</th><th colspan="12">研修ローテーション科</th></tr>
<tr><td rowspan="4">2年次</td><td>大代洋輔</td><td>救急科</td><td>腎臓内科</td><td>糖尿病・代謝内科</td><td>消化器内科</td><td>泌尿器科</td><td>眼科</td><td>救急科</td><td>皮膚科</td><td>地域研修</td><td>精神科(東邦大森)</td><td>産婦人科</td><td>麻酔科</td></tr>
<tr><td>津村　周</td><td>循環器内科</td><td>整形外科</td><td>麻酔科</td><td>救急科</td><td>脳神経内科</td><td>腎臓内科</td><td>地域研修</td><td>産婦人科</td><td>消化器内科</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>豊田桃香</td><td>眼科</td><td>皮膚科</td><td>腎臓内科</td><td>眼科</td><td>膠原病リウマチ科</td><td>脳神経内科</td><td>産婦人科</td><td>救急科</td><td>糖尿病・代謝内科</td><td>地域研修</td><td>リハビリテーション科</td><td></td></tr>
<tr><td>矢部真奈</td><td>腎臓内科</td><td>救急科</td><td>産婦人科</td><td>呼吸器内科</td><td>消化器内科</td><td>リハビリテーション科</td><td>地域研修</td><td>糖尿病・代謝内科</td><td>脳神経内科</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">1年次</td><td rowspan="2">開田大輝</td><td>消化器内科</td><td>呼吸器内科</td><td>循環器内科</td><td>脳神経内科
膠原病リウマチ科</td><td>腎臓内科
糖尿病・代謝内科</td><td rowspan="2">麻酔科</td><td rowspan="2">救急科</td><td rowspan="2">消化器外科</td><td rowspan="2">呼吸器外科</td><td colspan="3" rowspan="8"></td></tr>
<tr><td colspan="5">一般外来研修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">敷嶋さよ</td><td>呼吸器内科</td><td>消化器内科</td><td>脳神経内科
膠原病リウマチ科</td><td>腎臓内科
糖尿病・代謝内科</td><td>循環器内科</td><td rowspan="2">呼吸器外科</td><td rowspan="2">消化器外科</td><td rowspan="2">麻酔科</td><td rowspan="2">救急科</td></tr>
<tr><td colspan="5">一般外来研修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">三條佑太</td><td rowspan="2">麻酔科</td><td rowspan="2">救急科</td><td rowspan="2">消化器外科</td><td rowspan="2">呼吸器外科</td><td>消化器内科</td><td>循環器内科</td><td>呼吸器内科</td><td>脳神経内科
膠原病リウマチ科</td><td>腎臓内科
糖尿病・代謝内科</td></tr>
<tr><td colspan="5">一般外来研修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">吉満優希</td><td rowspan="2">呼吸器外科</td><td rowspan="2">消化器外科</td><td rowspan="2">麻酔科</td><td rowspan="2">救急科</td><td>呼吸器内科</td><td>消化器内科</td><td>循環器内科</td><td>腎臓内科
糖尿病・代謝内科</td><td>脳神経内科
膠原病リウマチ科</td></tr>
<tr><td colspan="5">一般外来研修</td></tr>
</table>

（表2）2020年度研修医セミナー

	日程	テーマ	担当講師	
1	7月1日(水)　17:00	心電図で診断できる循環器疾患	循環器内科	相川
2	7月9日(木)　17:00	縫合セミナー(エチコン協賛)	消化器外科	大司
3	7月15日(水)　17:00	基本的臨床能力試験について①	呼吸器内科	長
4	7月22日(水)　17:00	経口糖尿病薬の使い方	糖尿病代謝内科	岩本
5	7月29日(水)　17:00	研修医が知っておきたい医薬品安全使用の情報	薬剤科	北岡
6	8月6日(木)　17:00	脳出血と画像診断	脳神経外科	原科
	8月12日(水)　17:00	中止		
	8月19日(水)　17:00	中止		
	8月26日(水)　17:00	中止		
	9月2日(水)　17:00	中止		
7	9月9日(水)　17:00	輸液栄養領域勉強会(水、電解質/酸塩基平衡の基礎)	大塚製薬	
8	9月16日(水)　17:00	漢方薬の基本的注意と頓用処方	ツムラ	
9	9月23日(水)　17:00	大腿骨骨折	整形外科	池田
10	9月30日(水)　17:00	輸液栄養領域勉強会(末梢静脈栄養)	大塚製薬	
11	10月7日(水)　17:00	急性腹症	消化器外科	風間
12	10月14日(水)　17:00	輸液栄養領域勉強会(中心静脈栄養/栄養管理と脂肪)	大塚製薬	
13	10月21日(水)　17:00	気胸の診断と治療	呼吸器外科	栗原
14	10月28日(水)　17:00	輸液栄養領域勉強会(経腸栄養法)	大塚製薬	
15	11月4日(水)　17:00	アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について	緩和ケア認定看護師	中西

	日程	テーマ	担当講師	
16	11月11日(水) 17:00	神経筋疾患の診療	脳神経内科	小林(正)
17	11月18日(水) 17:00	排尿症状へのアプローチ	泌尿器科	小林(剛)
18	11月25日(水) 17:00	研修医に知ってほしい皮膚病変	皮膚科	岩渕
19	12月2日(水) 17:00	介護保険制度について	医療ソーシャルワーカー	酒井
20	12月9日(水) 17:00	胸腔ドレーンの挿入と抜去	呼吸器外科	坪島
21	12月16日(水) 17:00	消化器内科で使用される薬剤	消化器内科	永嶋
22	12月25日(金) 17:00	脳梗塞の急性期治療	脳神経内科	齋藤
23	1月6日(水) 17:00	癌外科治療の歴史	消化器外科	安野
24	1月14日(木) 17:00	基本的臨床能力試験について②	呼吸器内科	長
25	1月21日(木) 17:00	透析について	腎臓内科	高橋
26	1月27日(水) 17:00	マックグラスを使った挿管(トレーニングあり)	麻酔科	安田
27	2月3日(水) 17:00	心エコーのとり方(トレーニングあり)	循環器内科	小野

(表3) 2020年度学会・研究会発表実績

演者	演題名	学会・研究会	日程
敷嶋さよ	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における嗅覚障害と年齢についての検討 関東地方会奨励賞(敷嶋さよ)、関東地方会指導医賞(小野　剛)	第665回日本内科学会関東地方会	12.12
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における嗅覚障害と年齢についての検討	初期研修医院内発表会	3.1
開田大輝	遷延する低血糖および著明な肝機能障害を来した神経性食思不振症の１例	第665回日本内科学会関東地方会	12.12
	遷延する低血糖および著明な肝機能障害を来した神経性食思不振症の１例	初期研修医院内発表会	3.1
三條佑太	胸腔−腹腔シャント留置により胸水のコントロールを得られた高齢者局所進行乳癌の一例	第858回外科集談会 (日本臨床外科学会東京支部会)	12.19
	デンバーシャント留置により癌性胸水のコントロールを得られた高齢局所再発乳癌の1例	初期研修医院内発表会	3.1
吉満優希	Nutcracker syndromeを合併した肺動脈血栓塞栓症の１例	第665回日本内科学会関東地方会	12.12
	Nutcracker syndrome(NCS)を合併した肺動脈血栓塞栓症(PTE)の1例	初期研修医院内発表会	3.1
大代洋輔	遠隔診療によるSGLT2阻害薬処方後に発症した正常血糖糖尿病性ケトアシドーシスの1例	第666回日本内科学会関東地方会	2.7
	遠隔診療によるSGLT2阻害薬処方後に発症した正常血糖糖尿病性ケトアシドーシスの1例	初期研修医院内発表会	3.1
津村　周	胆管細胞癌に伴うTrousseau症候群の88歳女性例	第666回日本内科学会関東地方会	2.7
	胆管細胞癌に伴うTrousseau症候群の88歳女性例	初期研修医院内発表会	3.1
豊田桃香	集学的治療が奏功した高齢者の重症IgA血管炎の１例	第665回日本内科学会関東地方会	12.12
	集学的治療が奏功した高齢者の重症IgA血管炎の一例	初期研修医院内発表会	3.1

(表4) 2020年度研修医の進路

区分	学年	氏名	出身大学	2021年度進路
基幹型	1年目	開田大輝	東邦大学	玉川病院
	1年目	敷嶋さよ	東京女子医科大学	玉川病院
	2年目	大代洋輔	筑波大学	東京医療センター　麻酔科
協力型 東京医科歯科大学	1年目	三條佑太	日本大学	東京医科歯科大学医学部附属病院
	1年目	吉満優希	三重大学	東京医科歯科大学医学部附属病院
	2年目	津村　周	九州大学	九州大学　神経内科
	2年目	豊田桃香	東京女子医科大学	東京女子医科大学　眼科
	2年目	矢部真奈	大分大学	東京医科歯科大学医学部附属病院　精神科

電子カルテ・診療記録委員会

文責／和田義明

◎目　的

電子カルテでの診療録の記載内容のチェックを行うとともに、記載内容の向上を図り、医療の質の向上を目指す。クリニカルパスの作製を奨励しその承認を行う。

◎メンバー（2020.3現在）

委員長：和田義明(診療部)
診療部：高橋康訓
電子カルテ室：畑山築雄、大塚理栄
医療技術部：原　慶、谷口亜図夢、小河原由佳
看護部：武本千恵美
事務部：橋本史子、佐藤美和、白木千恵、長田　瞳

◎開催日

最終火曜日、午後5時　この他に随時開催

◎活動報告

1.定期的にカルテチェックを行い記載の実態を確認し改善点を指摘した。
2.クリニカルパスの実施を奨励し、腹腔鏡下虫垂切除術など5件承認を行った。
3.ハードウエアの状況を確認し、将来電子カルテ用貯蔵容量の拡大につき検討を行った。
4.できるかぎりのペーパーレス化を目指し、スキャニング保存文書の再確認とタイムスタンプの導入の検討を行った。
5.電子カルテの記載につき検討を行い、医師への啓発を行い、記載率の向上を図った。
6.新型コロナ問診票の改定を行った。
7.検査説明文書の改定を行った。
8.機能評価に向けてカルテ監査や改善提言などを行った。
9.監査に伴い診療情報提供書の保存につき改善を行った。
10.災害時の運用につき再度検討を行った。
11.ACPの普及を目指し、医療に対する要望書の検討を行った。

◎今後の目標

診療録の適切な記載と電子カルテによる更なる各部門の情報共有を図り、チーム医療をさらに促進させる。記載入力の簡素化を図り業務の遂行を早め残業を減らす。

防火及び震災対策委員会

文責／武田和磨

◎目　的

災害時における防火管理や防災対策についての検討を行い、自然災害(地震など)や火災発生時に院内の安全を確保し医療機能を維持するため、また2020年度より災害拠点病院になり今まで以上に適切な医療救護活動を行うために、災害対策と防災管理体制を整備することを目的とする。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：松原正明(診療部)
看護部：高橋由美子
医療技術部：井上博満
事務部：佐々木栄三、藤井　隆、高橋英次
＜ワーキンググループ＞
看護部：岸田みや子、鬼塚亜紀子、田中　峻、佐藤孝太郎
医療技術部：竹場和代、弓場一伸、松村彩子、佐藤佑介、河原真沙実、喜古　勇
事務部：水戸宏樹、勝間田　晋、武田和磨

◎開催日

第3水曜日、午後4時

◎活動報告

・災害関連書類の改訂、再検討：消防計画、BCP、災害対策マニュアル
・防災訓練の実施：防災訓練(11月／2月)の企画、運営
・区西南部保健医療圏　地域災害医療連携会議の参加：松原(診療部)、佐々木・藤井(事務部)
・災害対応力向上研修:都立広尾病院　防災センター長中島氏による災害拠点病院についての講習
新型コロナウイルス感染拡大防止のため院外研修や会議の中止。また、防災訓練の開催時期が例年と比べ遅くなってしまった。
・次年度より、作業効率化を図るため「訓練」「備品管理」「書類」の3チームに分類。

◎今後の目標

2020年6月のプレハブ設置に伴い消防計画を改訂。2021年6月に予定されている病院機能評価に向け、事業継続計画(BCP)と消防計画および大規模災害対策マニュアルの改訂、院内各部署でのセカンドアクションカード(災害対策マニュアル)の策定を現在進行中。完成を目指す。

また、災害拠点連携病院から災害拠点病院になった。災害時に適切な医療救護活動を行うためのフローを確立していく。

年2回の防災訓練の内容を充実させ、災害発生時における災害対応(避難誘導など)の徹底や、職員の防災意識の向上を目指す。

臨床倫理委員会

文責／長　晃平

◎目　的

当院で行われる医療行為について、ジュネーブ宣言やリスボン宣言の趣旨に沿い倫理的観点から、必要な事項を整備し、また職員から求められる新たな問題に対して審査、助言を行う。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：長　晃平（診療部）
診療部：奥田直樹
看護部：澁谷喜代美、中西君代
医療技術部：井上博満、北岡　晃、小野﨑佳彦
外部有識者：西内　岳（弁護士）
高橋幸子（聖ドミニコ学園中等高等学校校長）

◎開催日

第4火曜日、午後4時30分

◎活動報告

1.2020年4月1日　入職者オリエンテーション内で委員会より当院倫理方針を発表した。またジュネーブ宣言の共有を行った。

2.2020年10月開催予定とした医療倫理セミナーは、外部有識者の高橋先生に「慈愛に満ちた医療」の講演をいただく構想であった。新型コロナ感染症のため、企画段階で中止した。

3.適応外使用の審議

①2020年4月6日　COVID-19に対するアビガンの（研究倫理と共同）：［申請者］長　晃平呼吸器内科部長、研究計画書（背景因子と治療効果；［研究代表者］土井洋平、藤田医科大学及びCOVID-19に関するレジストリ研究；［研究代表者］大曲貴夫　国際医療センター）を迅速審査し了解した。

②2020年5月11日　駆虫剤ストロメクトール錠の新型コロナウイルス感染症治療への適応に関して：［申請者］森田瑞生呼吸器内科副部長；審議の上、承認。

③2020年10月8日　ドレナージ困難な膿胸症例におけるウロキナーゼ胸腔内注入療法：［申請者］気胸研究センター坪島顕二副部長；審議の上、承認。

④2020年12月1日　全身状態不良な難治性気胸に対する高濃度ブドウ糖胸腔内注入による肺漏閉鎖：［申請者］気胸研究センター坪島顕二副部長；審議の上、承認。

⑤2021年2月18日　アクテムラ点滴静注薬、皮下注射薬の新型コロナ感染症への適応外使用：［申請者］森田瑞生呼吸器内科副部長；審議の上、承認。

⑥2021年2月17日　他の治療困難あるいは無効な難治性気胸に対するOK432（ピシバニール）による胸膜癒着療法：［申請者］気胸研究センター坪島顕二副部長;ほかに治療法がないことおよびリスクの十分に説明とその同意をいただいた上での実施を前提等審議の上、承認。

⑦2021年2月17日　他の治療困難あるいは無効な難治性気胸に対するミノマイシンによる胸膜癒着療法：［申請者］気胸研究センター坪島顕二副部長；ほかに治療法がないことおよびリスクの充分に説明とその同意をいただいた上での実施を前提等審議の上、承認。

⑧2021年2月17日　オルミエント（バシリチニブ）新型コロナ感染症によるサイトカイン放出症候群に対する治療：［申請者］森田瑞生呼吸器内科副部長；審議の上、承認。

4.職業倫理指針の作成

2020年度、継続的に協議を重ねた。2016年10月発刊された日本医師会の第3版医師の職業倫理指針を基盤とした医療職全体の倫理指針が2021年4月に完成予定である。

◎今後の目標

1.臨床倫理のセミナーの定期的開催
2.医療人の職業倫理指針の完成と院内浸透
3.適応外使用の審査については研究倫理とその役割について協議を重ねる。
4.終末期患者での正しいプロセスを踏んだ方針決定を各電子カルテに反映させる。

虐待対策委員会

文責／相川　丞

◎目　的

児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者虐待など(疑いを含め)に対して迅速に対応し、組織的な対処を行うこと。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：相川　丞(診療部)
診療部：原科純一、佐藤敦子、三浦孝夫
看護部：栗原真希、三島典子、藤原美佐江
医療安全管理室：杉山　恵(ジェネラルリスクマネージャー)
MSW：小池小百合、田村　唯、
事務部：藤井　隆

◎開催日

定例：第3火曜日、午後5時
臨時：緊急の問題事例が発生したときに委員会召集

◎活動報告

本年度は虐待対策対応マニュアルを更新し、フローチャートを平日と夜間・休日に分け、さらに入院・外来にわけてわかりやすくした。

これらを電子カルテ上にアップして使いやすくした。

年間の虐待対応症例は外来9件、入院6件であった。それぞれ1件が警察介入を依頼した。そのほか児童相談所、家庭支援センターなどに引き継ぎを行い、重大な事件の発生は予防できた。

◎今後の目標

様々な虐待に対する職員の知識、理解を深める活動を行い、被虐待患者の早期発見に努める。

虐待対応フローチャートを周知して、早期対応、連絡体制を確立する。院外関係機関(児童相談所、家庭支援センター、あんしんすこやかセンター、警察など)との連携体制を確立する。事例検証と症例蓄積を重ねて、迅速で適切な対応により重大事件の発生を予防する。

国際対応委員会

文責／大石陽子

◎目　的

円滑かつ安全に外国人患者を受け入れるための環境整備および職員に対する言語・異文化に関する研修を企画する。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：大石陽子(診療部)
看護部：山東真由子(外国人患者受入れコーディネーター)、
　　　　原賀由美子(外国人患者受入れコーディネーター)、
　　　　松岡愛也、古荘　瑩
医療技術部：竹場和代、小林俊介、古賀一将、
　　　　　　上村咲来、篠原　真
診療支援部：畑山築雄
事務部：下山奈巳、池田望岬、
　　　　安斎由美(外国人患者受入れコーディネーター)

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1. 外国人患者受け入れ状況データ収集(外来受診者数・入院数・対応言語数)
   2020年度外来受診者数676名、入院患者数44名、対応言語は英語、中国語、韓国語、インドネシア語、スペイン語、タガログ語、フランス語、ポルトガル語であった。他言語対応を必要とする症例は570名であった。
2. 医事課
   主たる入院・手術の概算表を各外来窓口に設置。
3. リンクナースによる看護環境整備
   リンクナース会の定期開催、リンクナース通信(月一回)発行。患者満足度調査アンケートの実施。実際に行われた通訳に対する患者の理解度などの通訳評価および症例検討会を行った。
4. 薬剤科における外国人対応データ収集・環境整備
   持参薬入力マスタの外国人対応、電子カルテ内に薬剤関連の英語患者説明書掲載および内視鏡検査指導箋の作成。

◎今後の目標

・2021年度東京オリンピックに向けた準備
・2021年度JMIP更新に向けた準備

事務局
医学研究所
玉川病院
玉川クリニック
佐倉厚生園病院
佐倉ホワイエ
日産厚生会診療所

薬事委員会

文責／北岡　晃

◎目的

医薬品の適正な採用、管理、運用を図ることを目的とする。採用(仮採用も含む)、削除、適正使用、管理、医療安全、後発品の導入、製造販売後調査受け入れ、その他必要と認める事項について審議する。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：森田瑞生(診療部)
診療部：佐藤敦子
医療技術部：北岡　晃、榎木瑞穂
看護部：武藤香都美
事務部：佐藤佳子、和田哲馬

◎開催日

第4月曜日、午後5時

◎活動報告

・新規採用申請薬(32品目)、後発医薬品およびバイオ後続品(21品目)、院外のみ採用薬(9品目)、削除薬(53品目)について審議を行った。
・仮採用申請薬(168品目)・購入、自主回収・供給停止、有害事象発生件数、製造販売後調査の進捗状況について確認を行った。
・後発医薬品使用割合は、84.8％(2020年3月)から85.3％(2021年3月)へ増加したが、85％に満たない月も多く、後発医薬品体制加算Ⅰは算定できなかった。
・倫理委員会において承認されたCOVID-19治療薬について周知を行った。
・フォーミュラリーについて委員会として進めていくことを確認した。
・正式採用後1年間の使用実績調査を行い、使用症例が20名以下の薬剤について採用継続の可否の検討を行った。
・予防接種法の改正について周知を行った。
・小林化工(株)の行政処分による出荷停止への対応を行った。
・最新版の「今日の治療薬」の切り替えを半数の部署で行った。

◎今後の目標

・病院機能評価で指摘された過剰な採用品目を整理し削減する。
・同一薬効が複数ある薬剤についてフォーミュラリーを導入して整理を進める。
・後発医薬品の使用数量割合85％以上を達成し、後発医薬品体制加算Ⅰの算定を目指す。

化学療法委員会

文責／小倉敬史

◎目　的

がん化学療法の安全性と有効性を確保し、抗がん剤の適正使用を推進する。

◎メンバー（2021.3現在）

委員長：森田瑞生(診療部)
診療部：佐藤　康、大石陽子、大司俊郎、田中将樹、仁平光彦
看護部：佐々木真有子、中井柚香、中村香織、千葉博子
医療技術部：小倉敬史、松田沙貴子、矢口直美、猪狩亜希子

◎開催日

第4火曜日、午後5時

◎活動報告

・化学療法開始時の患者同意書の改訂を行った。免疫関連反応などの項目の追加などを行い、全科使用可能なフォーマットとして運用を開始した。
・パラプラチン(ブリストル)からカルボプラチン(日本化薬)への採用切り替えについて審議し、変更を行った。
・新規レジメンの審査、承認、登録を行った。
　エンハーツ療法(胃癌)
　テセントリク＋アバスチン療法(肝細胞癌)
・サイラムザの点滴時間短縮レジメン(1回目：60分、2回目：30分)への変更を行った。
・看護師向けの抗がん剤流量計算資料を作成し電子カルテエントランス上へアップし、情報共有できる体制を構築した。
・新規に保険適応が認められたAll-ras採血検査について、オーダーの必要性について審議し検査を開始した。
・ガイドラインに基づき免疫チェックポイント阻害剤の検査項目の改訂を行った。

◎今後の目標

・院内がん勉強の開催方法の検討
・iiAE対策ガイドラインの作成
・免疫チェックポイント阻害剤併用時のオーダー方法の検討

その他委員会

名称	委員長	目的	開催日
医療ガス安全管理委員会	安田誠一 (診療部)	医療用ガス(診療用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等)設備の安全管理を図り、患者の安全確保を目的とする。	年1～2回
機器整備委員会	松原正明 (診療部)	医療機器、用具および什器の新規購入、更新、廃棄について審議する。	第2月曜日
手術室運営委員会	安田誠一 (診療部)	手術室の安全管理、清潔管理、機器整備、各科の意見交換等を行い、手術室の合理的運営を図る。	第3月曜日
輸血療法委員会(自己血輸血委員会)・臨床検査適正化委員会	松原正明 (診療部)	輸血療法の安全確保と適正化を図る。	第4月曜日
救急・外来運営委員会	石井一之 (診療部)	玉川病院における外来業務に関する問題点を協議し、解決していくことを目的とする。救急医療についての記録、整備についても検討する。	第4月曜日
栄養給食委員会	岩本正照 (診療部)	治療の一環として提供する病院給食の効率的な運営や改善を図る。	第3火曜日
衛生管理委員会	佐々木栄三 (事務部)	職員の健康障害の防止、健康保持促進、労働災害の防止に係る対策を検討する。	第3火曜日
NST委員会	佐藤　康 (診療部)	栄養評価・栄養状態の改善を通して、治療効果の向上・感染症の減少・在院日数の短縮・医療費の削減・ＱＯＬの改善など医療レベルの向上を図ることを目的とする。	第4火曜日
広報委員会	二神　創 (診療部)	広報誌を発行することで、当院の情報を開業医や患者に提供し、当院の利用促進を図る。ホームページを日常的に管理し、情報の新規掲載や更新を行う。	第2水曜日
救命救急講習委員会	齋藤和幸 (診療部)	成人の突然の心停止に対する「最初の10分間」の対応とチーム蘇生方法について、日本救急医学会認定ICLSコースを通し、病院職員全体に学んでもらうことを目的とする。	第2水曜日
褥瘡対策委員会	岩渕千雅子 (診療部)	入院患者の褥瘡の状況を調査し、適切な対策を立て、治療効果を評価する。	第4水曜日
診療報酬委員会	小林　剛 (診療部)	診療報酬請求に対する減点対策を行うとともに、保険診療の適正化と円滑な運営を図る。	第4水曜日
認知症ケア委員会	日熊麻耶 (診療部)	認知症に関わる知識の浸透、認知症患者に対するケアの改善を図る。	第1木曜日
緩和ケア委員会	佐藤　康 (診療部)	緩和ケアに関わることの実施、啓蒙活動を行う。	第4金曜日
RST委員会	竹内孝夫 (診療部)	人工呼吸器を装着している患者(NPPV、HFTも含む)に対し、質の高いケアを提供するとともに、適切な呼吸管理が継続できるようにすることを目的とする。	第4金曜日

Ⅳ　福利厚生

保育室（ライクアカデミー株式会社）・総務課

文責／藤井　隆

スタッフ（2021.3現在）

室長1名、副室長1名、その他スタッフ8名

活動状況

玉川病院保育室は職員（常勤・非常勤）の勤務時（日勤・夜勤）の利用が可能で、0歳児から5歳児のお子さんが対象となる。低学年の就学児も理由により可能な場合もある。

コロナのため、行事関係は縮小（保護者の参加人数を制限）して行った。

保育室では、月1回、消防避難訓練や事故対応訓練なども実施している。また感染対策委員は感染対応指導に添った感染症対策や対応を行っており、感染症発生時の報告や日々の業務報告を担っている。

さらに3ケ月毎（コロナ前は毎月）に総務課、看護部と保育室スタッフにて意見交換を行い、改善に取り組んでいる。

2020年度保育室利用状況・累計

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童	合計
2020年 4月	7	63	38	20	26	15	1	170
5月	11	86	44	29	13	0	0	183
6月	12	81	15	25	15	13	1	162
7月	21	80	18	20	15	10	1	165
8月	36	65	16	21	19	11	1	169
9月	12	80	15	24	13	13	3	160
10月	93	42	19	3	6	3	2	168
11月	121	41	17	3	4	1	1	188
12月	115	38	21	6	8	6	1	195
2021年 1月	103	45	18	2	6	2	1	177
2月	84	48	17	2	4	3	4	162
3月	143	64	15	11	12	12	2	259
合　計	758	733	253	166	141	89	18	2,158

◎保育時間

日勤保育時間 8：00～18：00

夜勤保育時間 16：00～翌10：00

◎保育定員

33名

◎保育料

1回につき1,000円（最大金額　20,000円／月）

希望者には、朝・昼・夕の給食やおやつの提供を行っている。（朝食200円、昼・夕250円、おやつ100円）

◎１日のスケジュール

9：00　朝の会
9：30　おやつ
10：00　晴天時はお散歩、雨天時はお絵かきや製作
11：30　昼食
12：00　お昼寝
15：00　午後のおやつ
16：00　自由あそび

◎年間行事予定

5月　春の遠足・子供の日
6月　保護者懇談会
7月　七夕
9月　お月見
10月　秋の遠足
11月　保護者懇談会
12月　クリスマス会
1月　お正月遊び
2月　豆まき
3月　ひな祭り

今後の目標

コロナ禍で感染がどこで起こるかわからない。出来る限りの感染防止対策をとって、安心して預かれるような場所としたい。